布地には素材(綿, 絹など), 基本特性(厚さ, 重さなど), 力学特性(引張り性, 圧縮性, 剪断性, 曲げなど), 表面特性(光沢性, 平滑性, 凹凸性, 透明性, 毛羽など), 色・柄特性(チェック, ストライプなど)など異った布特性(物性, 風合い, イメージ)が存在し, 人個有の感覚特性などが加わって布特有のイメージが形成され, 人の布地に対する好みや選択性に関係していると考えられる。布特性のうち基本, 力学特性については研究が進み, これらと布特性との関係も明らかにされてきつつあるのに対し, 表面特性を含めた総合的な布特性についての検討はあまりみられない。先に¹⁾ 綿布についての布特性とイメージの関係について調べたが, 引き続き本研究は絹と化学繊維系織物について, 布の表面物性にもとづくイメージを主体にして検討した。

用いた試料は絹13, レーヨン2, キュプラ3, アセテート2, プロミックス1, ナイロン1, ポリエステル8の30種の織物すべて初級の薄地生地である。表面物性として光沢性(対比光沢度, 顕微光沢度); 平滑性(指動摩擦係数, 摩擦力の塩巾), 凹凸性(凹凸高さ), 透明性(光透過度)を求めた。基本物性として厚さ, 重さ, 力学物性として硬軟度, 伸長弾性率, 防しぬ度などを求めた。イメージ調査は25対の基本, 力学, 表面イメージ用語を被験者より自由に選び, SD法により調べた。

表面物性値とSD法によるイメージ得点の間にばいずれも相関が認められる。好みとの関係では力学, 感覚イメージの影響が大きく, 表面イメージでは光沢性以外は少ない。